

定期作況報告

平成20年10月
(10月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年並、最低気温は平年より極めて低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比4%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比129%）。

10月上旬：最高気温、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より少なかった（平年比28%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比69%）。

10月中旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比16%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比126%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年並、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並であった。

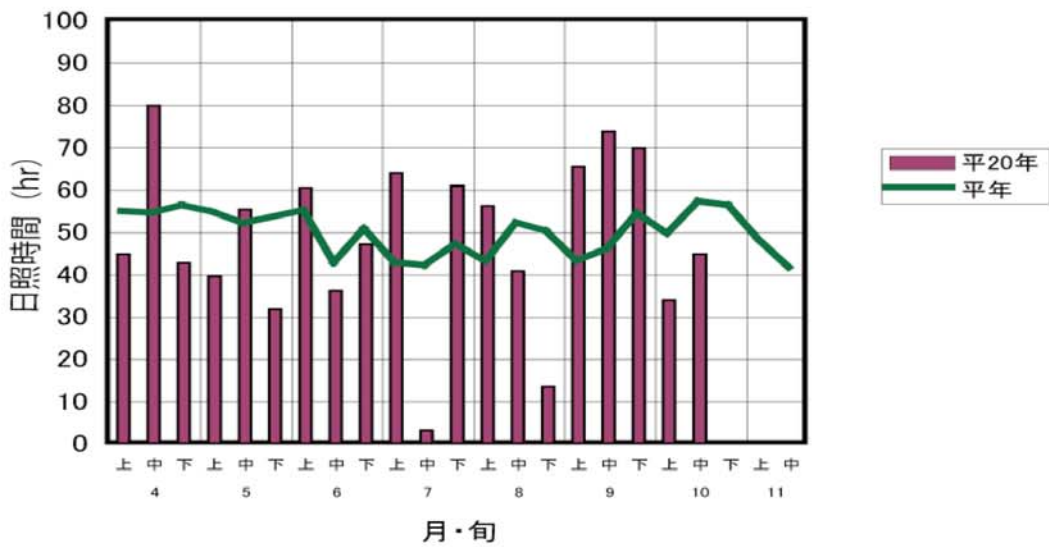
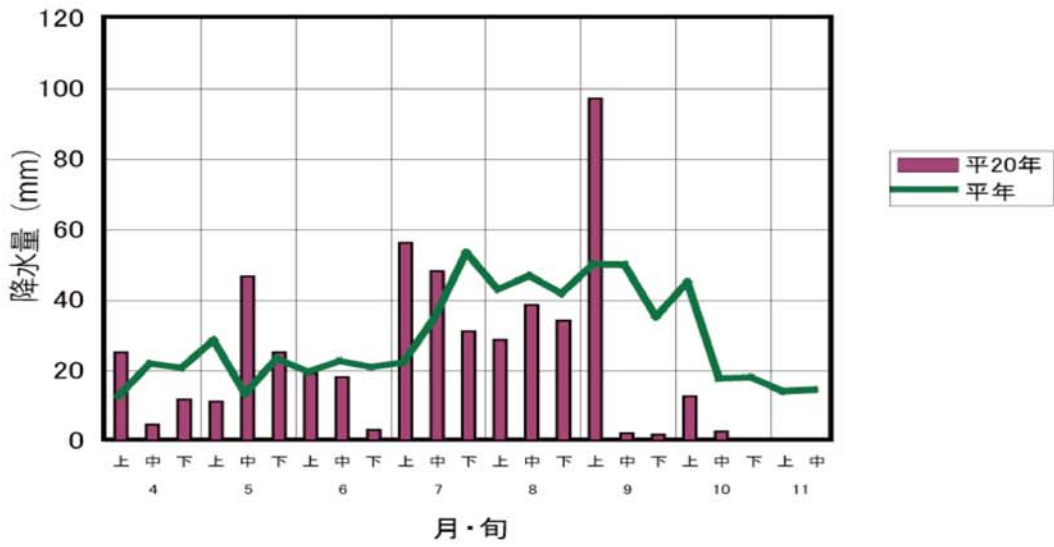
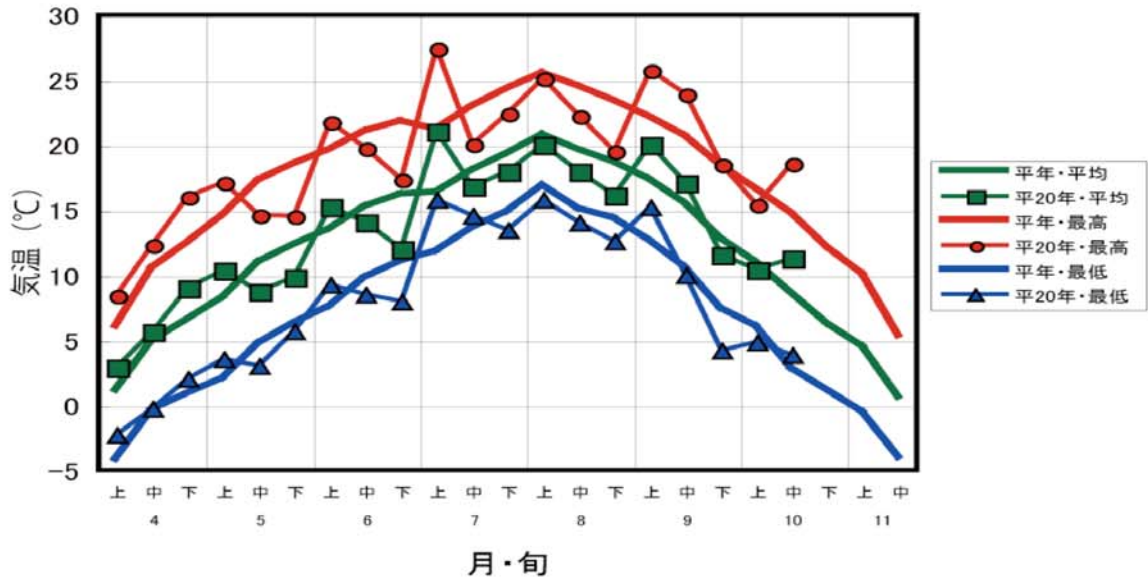
注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の平均値に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	11.6	12.7	△1.1	18.5	18.5	0.0	4.2	7.3	△3.1
10月上旬	10.5	10.9	△0.4	15.4	16.8	△1.4	4.9	6.0	△1.1
10月中旬	10.9	8.6	2.3	17.8	14.9	2.9	4.3	2.7	1.6
平均	11.0	10.7	0.3	17.2	16.7	0.5	4.5	5.3	△0.8

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（hr）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	1.5	33.7	△32.2	69.7	53.9	15.8
10月上旬	12.5	44.1	△31.6	33.9	49.3	△15.4
10月中旬	2.5	16.0	△13.5	70.5	56.1	14.4
合計	16.5	93.8	△77.3	174.1	159.3	14.8

注1）本年の観測値は、置戸町境野のアメダスデータ速報値である。

2）平年値は平成20年10月報告から気象庁気象統計情報境野の前10か年間データの平均値に変更した。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：やや不良

事 由：収穫期は平年より4日遅い9月25日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と、平年より登熟がやや遅れ、また総体の乾物率は平年より低かった。乾物総重は平年比が97%、推定TDN収量は平年比が94%であった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.25	9.21	4
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟中期	-
稈長(cm) (9月20日)	260.0	265.3	△5.3
生総重(kg/10a)	6976	6504	472
乾物茎葉重(kg/10a)	1014	900	114
乾物雌穂重(kg/10a)	879	1050	△171
乾物総重(kg/10a)	1893	1950	△57
同上平年比(%)	97	100	△3
推定TDN収量(kg/10a)	1338	1416	△78
同上平年比(%)	94	100	△6
総体の乾物率(%)	27.1	30.2	△3.1
乾雌穂重割合(%)	46.5	53.9	△7.4
有効雌穂割合(%)	101.7	99.6	2.1

注) 平年値は前4か年の平均(供試品種を変更したため)。

2) 大豆

作 況：平年並

事 由：成熟期は平年より5～8日遅く、「トヨコマチ」、「ユキホマレ」とともに10月4日であった。「トヨコマチ」は、着莢数が平年並で、百粒重が平年を上回ったため、子実重は平年を9%上回った。「ユキホマレ」は、百粒重は平年を上回ったものの、着莢数が少なかったため、子実重は平年を4%下回った。また、両品種ともに8月下旬の低温による裂開粒の発生がみられたため、屑粒率が平年より多かった。

「トヨコマチ」の子実重は平年を上回ったが、「ユキホマレ」が平年をやや下回ったことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	10.4	9.26	8	10.4	9.29	5
主茎長(cm) (成熟期)	67.9	60.7	7.2	69.8	59.7	10.1
主茎節数 (成熟期)	11.4	11.2	0.2	11.6	11.0	0.6
分枝数(本/株) (成熟期)	5.2	5.6	△ 0.4	4.5	5.0	△ 0.5
着莢数(個/株) (成熟期)	62.2	62.1	0.1	63.5	69.2	△ 5.7
子実重(kg/10a)	364	333	31	351	367	△ 16
同上平年比(%)	109	100	9	96	100	△ 4
百粒重(g)	37.7	32.5	5.2	38.1	33.2	4.9
屑粒率(%)	6.0	0.7	5.3	5.6	1.9	3.7

注1) 平年値は前7か年中、平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 小豆

作況：良

事由：成熟期は、「サホロシヨウズ」が平年より7日遅い9月27日、「エリモシヨウズ」が8日遅い10月6日であった。百粒重が平年をやや上回り、着莢数も平年をかなり上回ったことから、子実重は平年を17～23%上回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.27	9.20	7	10.6	9.28	8
主茎長 (cm) (成熟期)	67.2	57.9	9.3	64.5	67.1	△ 2.6
主茎節数 (成熟期)	12.9	11.7	1.2	14.0	13.8	0.2
分枝数 (本/株) (成熟期)	3.6	4.2	△ 0.6	3.7	4.2	△ 0.5
着莢数 (個/株) (成熟期)	55.9	52.6	3.3	61.5	49.8	11.7
子実重 (kg/10a)	433	369	64	502	409	93
同上平年比 (%)	117	100	17	123	100	23
百粒重 (g)	16.8	16.0	0.8	15.9	15.4	0.5
屑粒率 (%)	5.0	4.8	0.2	4.8	2.7	2.1

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

4) 菜豆

作況：やや良

事由：「大正金時」、「福勝」とともに着莢数は平年をやや下回ったが、百粒重が平年を上回ったため、子実重は平年より5～7%上回った。また、「大正金時」では色流れ粒の発生により、屑粒率がやや高かった。

以上のことから、目下の作況はやや良である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
着莢数 (個/株) (成熟期)	18.3	20.2	△ 1.9	16.9	18.7	△ 1.8
子実重 (kg/10a)	358	336	22	399	379	20
同上平年比 (%)	107	100	7	105	100	5
百粒重 (g)	82.0	75.0	7.0	98.8	91.3	7.5
屑粒率 (%)	8.4	5.3	3.1	4.6	5.2	△ 0.6

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

5) ばれいしょ

作 況：やや不良

事 由：「コナフブキ」の枯凋期は平年より3日遅い10月8日であった。「コナフブキ」は前報と同様に、植え付けの遅れ等による肥大の遅れの影響により、上いも重、でん粉価とも平年を下回った。このため、でん粉重は平年比89%となった。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	コナフブキ		
	本年	平年	比較
枯凋期(月.日)	10.8	10.5	3
上いも数(個/株)	9.5	9.5	0.0
上いも1個重(g)	106	113	△7
上いも重(kg/10a)	4467	4806	△339
同上平年比(%)	93	100	△7
でん粉価(%)	21.9	23.0	△1.1
でん粉重(kg/10a)	935	1055	△120
同上平年比(%)	89	100	△11

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17(最豊)年、「コナフブキ」は平成15(最凶)、18(最豊)年を除く5か年の平均。

6) てんさい

作 況：やや良

事 由：極端な低温に遭うこともなく、茎葉の活性が維持されたため、根部の肥大はほぼ回復した。また、降水量が少なかったうえに、気温の日較差が大きかったため、糖分の蓄積は平年を大きく上回った。収穫は平年並の10月20日に行い、移植栽培の根重は2品種平均で平年比100%、根中糖分は104%、糖量は104%、直播栽培の根重は平年比95%、根中糖分は105%、糖量は平年比99%である。

以上のことから目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	7064	6380	684	6511	6043	468	6389	5308	1081
根重 (kg/10a) (10月20日)	6800	6576	224	6739	6996	△257	5412	5693	△281
根中糖分 (%) (10月20日)	17.91	17.17	0.74	18.35	17.72	0.63	18.04	17.25	0.79
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1218	1128	90	1236	1238	△2	976	982	△6

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成15年(最凶)及び17年(最豊)、移植「アーベント」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

7) 牧草(チモシー)

作況: やや不良

事由: 3番草の草丈は平年並であったが、乾物収量は平年比87%と少なかった。

また、1～3番草の合計乾物収量は平年比が91%であった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	10.2	10.6	△4
病害罹病程度	3番草	4.5	4.3	0.2
草丈(cm)	3番草	43	46	△3
生草収量(kg/10a)	3番草	466	715	△249
	1～3番草合計	3717	4687	△970
乾物率(%)	3番草	32.1	25.6	6.5
乾物収量(kg/10a)	3番草	150	173	△23
	1～3番草合計	977	1076	△99

注) 平年値は前6か年のうち平成19年(最凶年)を除いた前5か年の平均(耕種概要と調査項目を大幅に変更したため)。病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。